

対話でつなぐ授業 一考察

岩瀬 竜弥



指導員訪問⑥

1年 生活科「あきとふれあおう」 竹下 都 教諭

ペア学級である6年生を招待して「秋のおもちやランド」を開くことを構想した竹下教諭。作った「どんぐりごま」をよりよいものにするにはどうしたらよいか考え、その考えを友達と伝え合いながら、実際にどんぐりごまを改良したり、遊び方を工夫したりする姿が見られたかどうかです。そのために、より子供の目線で、その子でしか発揮できない学びが授業の中で生かされるように導く工夫や教師の出が求められます。



竹下教諭は、あこがれの教師との出会いがありました。また、体育教師である母の影響も大きく受けて、小6の文集にはすでに夢を書き込んでいたそうです。その教師も母も常に楽しそうで、生き生きと働く姿が印象に。「生徒を何とかしてやりたい。」と母の体を張った仕事ぶりが、迷いなく教職の道へと導きました。子供一人一人の力を引き出す竹下教諭の原点がここにありました。



さて、本時では、「どんぐりごま」の楽しさを引き出すために、活動の約束を確認した後に、赤=回す時間、白=模様や飾り、無=その他、と帽子で視覚化を図ってフリー対話へ。5人グループで対戦、タイマーで計測する2人、ペンで模様をつける子、と様々です。相手のコマを見て爪楊枝を短くしたり、対戦から「太い方がいいかも」と考え始めた子供たち。さらに、「赤」と「白」など異色ペアでの対話も始まりました。十分活動時間を確保してフリー対話へ。ここで、新たな見方・考え方を生み出したかどうかをどうはつきりさせるか協議会も活発に。

- C1：爪楊枝が短くて、ずっと回っていた。
長く回っていた、ということ。
- T2：爪楊枝が短い方がいいってことだね。
- C3：C4君が20分回ってた。
- T4：(タイマーで計測、テレビに写して)
- C：1, 2, 3・・・16秒!
- C5：C6さんのコマがすごく長く回ってた。
(授業記録より一部抜粋)

私は、なぜC3がC4のどんぐりを気にしたのか知りたくなりました。C3はもともと「きれいな秋っぽいこま」に興味があった子です。授業後に聞くと、「だって、すごく回るどんぐりって、みんなが楽しくなるから」と笑顔で。20分と言ってしまふほど魅力的で、楽しくなる世界を感じたようです。紹介されたC4のどんぐり。「みんなはどう?」「勝負してみる?」みなさんならどう動きますか?

